

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2473100143		
法人名	社会福祉法人 エイジハウス		
事業所名	グループホーム ひぐらし まさやんち		
所在地	南牟婁郡御浜町大字神木23		
自己評価作成日	平成28年7月8日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2473100143-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2473100143-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 8 月 9 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出の機会を多く取り入れまた、ゆったりと楽しく生活して頂くようにしている。入浴は、夕方に入浴して頂き本人様の希望に応じている。そして野菜作りに力を入れ収穫した品物で職員と一緒に調理を楽しんで頂いている。また、例年同様味噌作り、梅干作りにも行っている。冬には、郷土のさんま寿司作りを予定して正月準備をしている。そして、隣接している特養の行事にも参加して交流を深めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が運営する特別養護老人ホームの敷地内に併設された2ユニット(せんやんち・まさやんち)の事業所である。介護業務に必要な知識・技術、及び応用力を高めるキャリアアップ研修を受けた有資格者が多く、どうしたら利用者のニーズに合った支援が出来るかを管理者・職員間のチームワークの良さで考え実践している。利用者の残存能力の維持・継続に配慮しつつ、全員参加、何でも手作り(味噌・梅干し・紫蘇ジュースなど)を目標に個人の能力に応じた支援をしている。又、畑仕事も加わり、生き生きとした時間を持ってもらう工夫がされている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りの際に理念に触れ職員全員が、声を出し継承し暗記している。	理念を管理者・職員でケア会議などで唱和している。利用者の意向を尊重し、能力に応じた自立生活を送れるような支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催されているイベントに積極的に入居様と出掛けている。又地域の方からもお誘いの声も掛けて頂いている。	月1回ほど、施設前の国道の掃除を継続していたり、運営推進会議で地域代表者より祭りなどの行事報告と共に誘いもあり参加している。又、いきいきサロンに参加して地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人のホームページに掲載している。また、広報誌を地域に配布しておりそして、お店に置かせてもらい事業所の日々の関わりを知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を年6回定期的に行い民生委員、包括センターそして、地元の警察の方にも出席して頂き、また入居者の家族入居者様にも出席して頂き意見交換を図りサービス向上に活かしている。	年6回開催し、地域包括・社協・民生委員・老人クラブ代表・警察・利用者・利用者家族など幅広い層の参加で、毎回たくさんの情報提供や活発な意見交換が行われている。頂いた助言は大いに役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議を年6回開催して、町職員や包括支援センターの職員にも出席して頂きケアサービスの取り組み等を議題に上げ協力関係を密にしている。	日常的な連携・協力関係は大切と考え、町主催の会議や研修会には積極的に参加し、情報交換をしている。昨年、志摩市より民生委員の視察があり、町・社協の協力で行うことが出来た。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室や玄関施錠等身体拘束等を日頃職員に周知しケアに取り組んでいる。	何が身体拘束に当たるのか、マニュアルに沿って年1回の法人研修会や事業所のケア会議などで話し合っている。日々のケアの中で気づいた事例があれば、その都度、話し合うようにし、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で、虐待行為を発見した場合の対応方法について話し合いそして、常に虐待が見過ごされる事がない様に事業所内でも、十分に注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護のパンフレットを事務所に設置しそして、法人の勉強会に出席し学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際契約書に基づいて説明し不安や疑問点をお聞きし了解して頂いた時点で捺印署名を頂いている。又苦情窓口の設置第三者委員会も設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方に地域運営推進会議に参加してもらい意見を頂き運営に反映させている。	家族の来所時には管理者を中心に面接し、話しやすい雰囲気づくりに心がけている。「ポカポカだより」を年3回発行し、事業所の行事の様子や職員紹介の写真を載せて伝えており家族から喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する事をケース検討会やリーダー会議等で話し合いを設けている。	年2回、職員の自己評価表を提出する機会を設けている。職員からの要望で男女の更衣室の建設やふろ場の脱衣場に扇風機を取り付けてもらうなどの要望が改善された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で人事制度の勉強会を設け職員の向上に努め又職場環境の意見を聞き運営に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修にも積極的に参加し人事考課制度に個人の目標を作成したチャレンジカードに記入し職員の力量を把握している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会や発表大会そしてグループホーム大会に参加し、サービスの質を向上をさせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、なるべく早く、雰囲気に溶け込んで頂ける様職員が会話の間に入り他の利用者様に紹介している。入居時に家族様からの在宅での情報を聞き、役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が抱えている不安にも耳を傾け安心して頂ける様報告等を常時行ないできる限り要望に添える様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様が何を求めているか把握し職員間で共有して支援するように努めて行き他のサービスの情報を把握するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に教えてもらう場面も多く、シェアハウスの様に、職員・利用者様が共に支え合い、生活している。そして、入居者様は人生の先輩である事を職員全員が共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当職員が家族に手紙を書き近況報告を行い入居者様本位で支援している。また、家族の要望にもできる限り添える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様や家族様から情報を聞きヘアークット、お墓参り等、その人その人が住んできた場所を大切にしていける様努めている。	日々の会話の中から馴染みの人や場所を聞いて関係が継続できるように支援している。理・美容院、墓参り、出身地の祭りに出かけるなど個々の希望に沿った支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が悩みを相談し合ったり、支え合いながら生活できる様支援し孤立せずに生活出来るように職員が間に入り努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様と併設している施設へ移られた方へ遊びに出掛けたり、遊びに来てもらったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や家族の希望を含め生活して頂いている。職員が、誕生日やお手伝いのお礼も兼ねて行きたい場所、思い出の場所等をお聞きし外出を行っている。	職員は、利用者が自分の思いを言いやすいように、入浴時・受診時など1対1で会話ができる機会を作り話を聞いている。思うように言えない利用者には、表情やしぐさの反応を見て「本人はどうか」という視点に立って把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、知人等の訪問時に職員が、生活の様子を聞いたり、本人の今の生活等も報告している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の生活リズムで生活して頂ける様その人に応じた社会的役割そして残存能力を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を主に考えモニタリングを行い、その中でサービスを組み・作成しケース検討会により定期的に見直している。	介護計画は、利用者担当職員・管理者・ケアマネージャーなどでケース検討会を行い、作成している。また、主治医・家族の意見を主に考え、見直しは常に(1~3か月毎)行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別に身体状況及び排便等をファイルに記録をし、定期的に行われるケース検討会において介護計画の見直し、情報の共有に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族様の状況に応じて通院や送迎等必要な支援に職員が柔軟に対応し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域での暮らしを続けられる様地域の方と連携を取り地域運営推進会議にて利用者様の状況・活動を報告している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族の希望を聞きかかりつけ医を決め事業所との関係も築く様に努めている。受診は、職員が付き添い受診している。	全員がそれぞれのかかりつけ医を持っている。受診には職員が付き添い支援し、受診結果は家族に随時報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変調があれば、併設している特別養護老人ホームの看護師に相談し、支援してもらっている。その情報を職員間で共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、家族とも情報交換しながら回復状況等、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族様とも終末の送り方について話して、自然な形で送れる様取り組み主治医そして併設している特養とも連携し支援している。	入居時点で看取りについては家族の要望が強いが、医師・看護師・職員との連携が重要視される事から、事業所として現時点では併設の特養、その他への移動を提案している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に対応できる様マニュアルを作成し、救急救命講習に全職員が参加できる様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している特養との合同避難訓練を行いまた地域の主催する防災訓練にも参加して地域との協力関係も気付くように努力している。	消防署立ち合いの下、併設する特養と共に初期消火・通報・避難誘導訓練をしている。地域主催の防災訓練にも参加している。非常食はホーム内に3日ぐらい備蓄している。	非常時に備えて、利用者が昼夜を問わず安全に避難できるようにホーム独自で職員の役割を決め、定期的に避難訓練されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の入り口には暖簾を掛けプライバシーにも対応して入居者様の思いを職員全員が、共有している。	居室入り口に暖簾をかけ、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように工夫をしている。何事もさりげなく行うように、日頃から利用者の人格を尊重した声掛けや対応を心がけ実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様がどんな思いでおられるのか傾聴し自己決定をして頂く様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて毎朝起きて頂く時間等希望聞いた上で生活して頂く様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日同じ衣服を着られない様入居者様と話し合い着て頂き話し合いが出来ない入居者様には職員がその人らしい衣服を選んで提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備や料理を職員と一緒に一人ひとりの好みを聞いて調理に努め一人一人のペースに合わせて食べて頂いている。	献立は決まっているが、利用者が畑で収穫した野菜等が1品加わる日が多い。食事の配膳・下膳など出来る範囲を手伝っている。誕生日には個々の希望に応じて外食(回転すし・ラーメン・ケーキなど)を楽しんだり食事に飽きがないように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の体調面を把握して食事を食べて頂き好みの飲み物を提供している。また給食会議を毎月設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握すると共に職員間で共有し口腔ケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で入居者様の排泄パターン等を話し合い自立に向けた支援を行っている。	排泄表を確認しながら声掛け誘導し、どの対応が一番良いかを検討し自立に向けた支援をしている。また、紙パンツから布パンツへ改善した利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を飲んで頂ける方には飲んで頂き気候の良い日には散歩や外気浴にお誘いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調面を考慮してありのままに入浴して頂いている。	週2～3回、夕方入浴を基本としているが、毎日シャワー浴される利用者もいる。個々の希望や健康状態にも配慮した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が入居者様の生活習慣を把握し安心して休息出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の申し送りの際そして、ケース検討会に服薬に関する勉強の機会を設け支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気候の良い日には外気浴にお誘いしている。そして、入居者様の趣味を把握することで気分転換をして頂いている。また生活力に応じて家事等を手伝って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の体調を考慮して外出の機会を設けまた天気の良い日には、中庭で食事をして頂く等支援している。	天気の良い日は施設前の広い畑での収穫が日常の楽しみとなっている。事業所の四季の外出や嗜好品や趣味に必要なものの買い物も個別対応で出かける支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持って頂ける入居者様には、持って頂き希望に応じて買い物に出掛けられるよう支援している。また施設の売店にも行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の心の気持ちを思いお話があれば自由に電話して頂いたりして支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて花を飾らせて頂いたり装飾を工夫して飾り居心地良く生活して頂くよう工夫している。	利用者の特技を生かした四季の手作り作品が、フロアの壁全体に飾られている。台所からは利用者の殆どが見通せるように工夫されている。又、両ユニットを往来する小型犬が、利用者・職員・来訪者の心を癒してくれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独り独りに合った生活をして頂けるように工夫した、独りになれた時は職員が、お話を聞かせて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品を居室に置き安心して過ごして頂ける工夫をしてまた、畳の生活に慣れている方には、畳部屋を提供している。	居室入り口には、表札代わりとなる職員手作りの暖簾が個々に掛けてある。掃除の行き届いた室内はエアコン以外は全て使い慣れた家具や日用品が置かれ、壁には家族写真やポスターを貼り、居心地よく過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事を職員が理解すると共に利用者様の状態に適した居住環境を整え、安全を確保し一人一人の能力に応じて援助している。		